

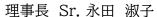
ニュースレター **ぶどうの木**

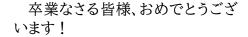


第25号

2025年2月







「卒業」という言葉は、何らかの業 を終えることを意味します。しかし、 英語では卒業式のことを、どうして か Commencement つまり「開 始」という真逆の言葉で表します。

過去を向いているか、未来を向いているかの違いであるかと思います。苦労をした過去の学びの期間がやっと終わったという安堵の喜びで見るか、または、さあ、これから始まるという期待と責任の自覚の気持ちで見るかの違いと言ってもよいかもしれません。

皆様お一人お一人の心の中はどう でしょうか。

社会人としてスタートするということは、これからの人生は自分が責任を持たなければならない、ということを意味します。自分の言動の結果は、自分が責任を持たなければならないのです。親でも先生でもありません。考えて見れば、これは当然なことなのですが、大変なことです。

でも、それこそやりがいのある仕事ではないでしょうか?これまでご自分が苦労して積み上げてきたことを足場に、人々のために尽くすことができるのです。そして更にご自分を豊かに成長させることができるでしょう。

そのような過程の中で、あなたが

一回りも二回りも大きく成長していくことが、育ててくださったご両親に対する最大のご恩返しにもなるでしょう。

未知の社会に飛び出ていくこと は、期待と同時に何らかの不安も あるものです。それは当然なこと です。それを乗り超えて、人は次 第に成長していきます。

私は藤女子大学英文学科を卒 業してすぐにマリア院に入会しま した。そしてシスターとしての3年 間の養成期間が終わってから、上 智大学の大学院で学ぶように言 われました。恥ずかしいことに、最 初の2年間はよく泣いたもので す。2年間の修士課程を終えて、 これで勉学を終わらせていただき たい、と頼みましたが、修道会の 長上から更に3年間の博士課程 に進むように言われました。試験 に落ちたら行かなくてもよいと言 われて、博士課程の入学試験の 日に出かけましたら、「試験は受 けなくてもよいです」と事務の方 に言われて、ガッカリしました。で も、そこで覚悟を決め、次の3年 間は非常に多くを学ぶ機会となり ました。よい恩人や友人たちとの 出会いがあり、人間として少しは 成長できたかなと思える感謝の3 年間となりました。

勉強を終えて札幌に戻り、一年 間は私の希望で中高の授業も非



「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。

人がわたしにつながっており、 わたしもその人につながっていれば、 その人は豊かに実を結ぶ。」

(ヨハネ福音書15章5節)

常勤でさせていただきました。2 年目に短大英文科の専任教員となって授業を担当しましたが、しばらくの間は、授業で緊張して脚が震えました。一所懸命に出席をとりながら、何とか気持ちを落ち着けたものです。

その年の秋、やっと授業にも慣れた頃に体を壊してしまい、5年間つらい時期を体験しました。子供の時から病気らしい病気の経験がなかった私は、この病気を恵みの体験として考え、これが与えられたことに感謝できました。この経験があるのとないのとでは、私という人間の幅が全く違うように思います。すべては恵みなのです。

皆さんも、これからの人生において何が待っているのか誰もわかりません。喜び、満足、感謝などもたくさんあるでしょうが、挫折、落胆、失敗なども経験するかもしれません。

いかなる時にも、「希望」を失わないでください! 人生は「希望の巡礼者」として歩んでゆくべきものです。

お元気に飛び立ってください。

2025年/聖年「希望の巡礼者」

2025年は、カトリック教会において「聖年」と呼ばれる年で、これは聖書の旧約聖書に由来する歴史的な記念の年です。旧約聖書レビ記25章の中で命じられている安息の年です。7年毎に土地を休ませる安息年が7回終わった翌年、つまり第50年目の年を指し、ヨベルの年と呼んでいます。(ヨベルというのは「雄牛の角」を指し、この年が始まる時に雄牛の角笛を響かせることから、ヨベルの年と呼ばれました。)

ョベルの年には畑を休ませ、49年目は7年毎の安息年にあたりますので、50年目のヨベルの年には2年続きの休耕年となります。農作物無しの2年です!レビ記25章に次のように書かれています。

「7年目に種も蒔いてはならない。収穫もしてはならないとすれば、どうして食べていけるだろうか」とあなたたちは言うか。わたしは6年目にあなたたちのために祝福を与え、その年に3年分の収穫を与える。(レビ記25章20-21節)

神のはからいへの絶対的な信頼が求められている 規定なのです。

種々の定めがありましたが、現代の目で見ても非常 に画期的な定めが与えられていました。その中から幾 つか紹介します。

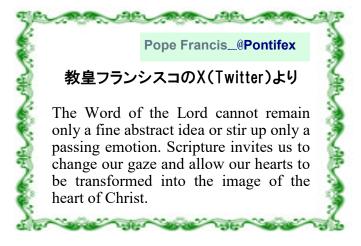
「もし同胞が貧しく、自分で生計を立てることができないときは、寄留者ないし滞在者を助けるようにその人を助け、共に生活できるようにしなさい。」 (レビ記25章35節)

「もし同胞が貧しく、あなたに身売りしたならば、 その人をあなたの奴隷として働かせてはならない。 雇い人か滞在者として共に住まわせ、ヨベルの年 まであなたのもとで働かせよ。その時がくれば、そ の人もその子供も、あなたのもとを離れて、家族の 元に帰り、先祖伝来の所有地の返却を受けること ができる。」(レビ記25章39-40節)

このヨベルの年という旧約時代の掟に基づいて、キリスト教は50年毎の聖年を設け、さらに後には25年毎に改められた聖年となって、今日に至っています。紀元2000年には大聖年として祝われました。この時には当時のヨハネ・パウロ二世教皇が、「多くの国々の将来に深刻な脅威となっている累積債務の帳消し、もしくは大幅削減」を求めました。

今年、フランシスコ教皇はこの路線に従って、富裕 国は貧困国にエコロジカルな債務を負っていること を認識して、返済困難な国々の債務を免除すること を提唱し、更に融資と債務という悪循環を避けるた めに、新しい金融制度を構築する必要があると述べ ています。つまり、「軍事費の一定の割合を飢餓撲滅





と持続可能な開発を促して気候変動に立ち向かえるように するため、最貧国での教育活動を支援する世界基金設立 に充ててください」と訴えているのです。

世界の明るい未来を創り出すためには、子どもたちへの教育を確実に行うことが絶対に必要です。教育を満足に受けられない子どもたちが、今も世界中に溢れています。紛争国・極貧国などで、初等教育からも遠ざけられている多くの子どもたちは、将来どうなるのでしょうか?

皆さんは、非常に恵まれている方たちです。初等教育、中 等教育ばかりか、高等教育まで受けることができました。 多く与えられた人には、責任があるということを忘れない で、希望と使命感をもって歩み出してください。

Nobless Oblige という言葉を心に抱いて。

卒業感謝ミサへお誘い

卒業なさる皆様のために、ご一緒に感謝のミサをお捧げします。どうぞ多数ご参加ください。お世話になった方々、特にご両親・ご家族、先生方、職員の方々、そして友人たちなど、すべての方々へ感謝を込めて祈りましょう。

日時 3月18日(火) 13:00 北16条キャンパス 聖マリア聖堂